

ASSETS OF OUR LIVES

《力強く・豊かで・思いやり溢れる人生のために》

志成館では「女性の地位向上という点での日本の遅れ＝日本の民主主義の遅れ」と解してしばしば ASSETS で取り上げています。日本の女性の地位の向上は重大な課題ではないでしょうか。 **世界中に多数の優れた女性指導者がいます**

日本の男女平等度合いを 分野別にみると

100点満点に換算、順位は144カ国中(前回は145カ国)



「女性活躍」掲げるが…

日本、男女格差111位 賃金・政治進出に遅れ

男女格差(ジェンダーギャップ)についての報告書で、日本は今年、144カ国中111位だった。昨年より大きく後退。安倍政権が掲げる「女性活躍」の看板はなかなか輝かない。どこがどう遅れているのか。

WEFは毎年「経済活動への参加と機会」「教育」「政治への参加」「健康」の4分野14項目で、男女格差の少なさを指数化。平均で総合順位を決めている。今回、日本の順位が特に後退したのは「男女の所得格差」。推計方法の変更もあり、75位から100位に。厚生労働省によると、働く女性の56・3%が非正規雇用。男女間賃金格差は男性のフルタイム労働者の賃金を100とした場合、女性は72・2で、こうした点が響いたとみられる。

管理職の女性比率も低い。従業員100人以上の企業の管理職(課長級以上)はアイスランドだ。

日本が低迷する一方、8年連続で1位となったのはアイスランドだ。

転機は「ストライキ」8年連続1位のアイスランド

アイスランドは8年連続1位のアイスランドだ。国会議員の41%、閣僚の44%を女性が占めるが、1970年代前半は女性議員はわずかだった。在日アイスランド大使館などによると75年10月24日、女性たちが仕事や家事への正当な評価を求め、職場や家庭で一斉に「ストライキ」を行ったのが転機。女性の力が社会に不可欠だと証明した。80年にはシングルマザーだったビグディス・フィンボガドッティル氏が大統領に当選し、選挙で選ばれた世界初の女性元首に。90年

議員増の制度未整備

政治の世界でも遅れが目立つ。女性国会議員の割合▽女性閣僚の割合▽過去50年間の女性国家元首の在任年数の3項目で、日本の得点は100点満点中10・3点。103位だった。女性国会議員は衆院で44人(9・3%)、参院で50人(20・7%)。地方議会も昨年末時点で12・4%にとどまる。人口の半数は女性。

男性社会だ。三浦まり・智大教授(政治学)は「長時間労働や賃金格差の問題など、政治が変えられることはたくさんある。女性という『眠れる資源』を、政治の場でもっと生かす仕組みが必要」と強調する。その一つが、候補者数や議席の一定割合を女性に割り当てるクオータ制だ。100カ国以上が導入。日本でも超党派の議員連盟が法案づくりを進めてきた。しかし、自民党の会議では「女性の社会進出で社会全体が豊かになっているとは思えない」(西田昌司参院議員)などと異論が噴出。提出は不透明な状況だ。



女性指導者 世界各地に

8日の米大統領選では民主党のヒラリー・クリントン候補が敗れたが、国際社会で女性指導者は少なくない。主要7カ国(G7)では、2005年にメルケル独首相(62)、今年7月にメイ英首相(60)が就任した。リトアニアやエストニアも女性大統領だ。東アジアでは韓国の大統領(64)、台湾の蔡英文総統(60)が初的女性トップ。ミャンマーでも民主化運動指導者アウンサン・スーチー氏(71)が外相兼国家顧問を務める。西アフリカ・リベリアの女性大統領、サーリーフ氏(78)は11年にノーベル平和賞も受賞。ブラジルでは初の女性大統領ルセフ氏(68)が今年8月、汚職疑惑で失職。主要都市では小池百合子・東京都知事(64)やイダルゴ・パリ市長(57)、ラッジー・ローマ市長(38)が知られる。【大前仁】